



「渋谷で感じる海」ワークショップ in 臨川小学校

渋谷区立臨川小学校 X SWiTH ワークショップ実施報告書

●「渋谷で感じる海」のコンセプト

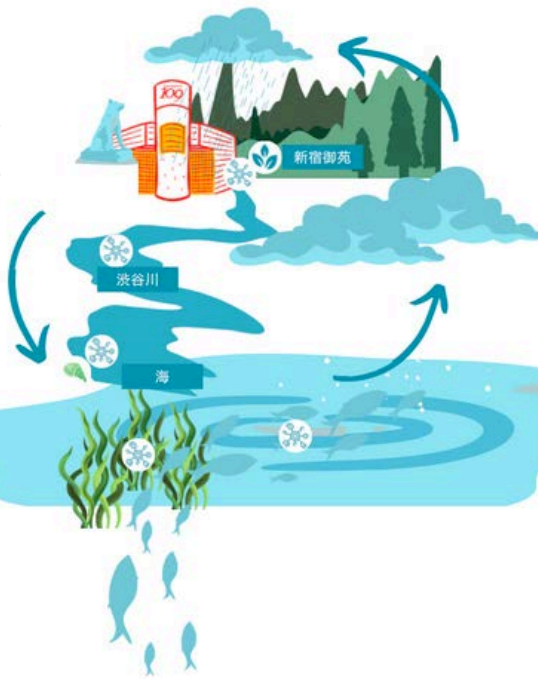
目の前に見えなくても、渋谷は海とつながっています。小さくて見えなくても、私たちは微生物とつながっています。都市は自然と無関係と錯覚しがちですが、実際には都市こそが自然に大きな影響を与えています。買い物をする際や交通機関を利用する際に、自然を活気づける選択をすることで、都市の中でありながら海や森を豊かにすることができるのです。

● 森は海の恋人～都市と海のつながり

渋谷に降った雨は、渋谷川を通して海へと流れていきます。川の水に含まれる栄養分や植物プランクトン、海藻などが、動物プランクトンや魚類などへと受け継がれ、壮大な食物連鎖を支えています。その後、海から蒸発した雨雲は陸地へと移動し、渋谷に雨をもたらし、豊かな森を育ててくれるのです。

●「渋谷で感じる海ワークショップ」開催目的

日本人の生活水準で世界中の人々が生活した場合、地球2.9個分の資源が必要になるとされています。この現状を踏まえ、地球1個分の資源で持続可能な暮らしを実現するための方策を探るワークショップを開催しました。このワークショップを通じて、ミクロな世界のプランクトンからマクロな規模の環境問題まで、人間と自然環境の密接な関係を学び、プランクトンを軸に環境問題の解決策を自由に発想することで、環境問題を身近に感じ、積極的に向き合うきっかけを提供し、持続可能な未来に向けた具体的な行動を促すことを目指しました。



開催日時 2024年7月5日、9日、16日

参加者合計 4年1組30名/4年2組30名 合計60名

会場 渋谷区立臨川小学校

共催 渋谷区教育委員会・一般社団法人SWiTH

協力 渋谷区立臨川小学校・三菱UFJ銀行渋谷支店

助成 日本財団 海と日本プロジェクト



環境問題と
海について学ぶ



地球を元気にする
プランクトンを
描いてみよう



デジタル図鑑に掲載！



第1回 渋谷で感じる海ワークショップ in 臨川小学校

SWITCH 代表佐座が国際的な気候変動の問題についてレクチャーした後、プランクトンの生態や海洋ゴミ問題についてクイズを交えながら紹介しました。レクチャーの中では、実際に児童が顕微鏡でプランクトンを観察してスケッチする時間や、海洋問題を解決してくれるプランクトンについて考え話し合う時間ももちました。

● ワークショップ概要

開催日時 2024年7月5日（金）11:15~12:00
参加者合計 4年1組30名／4年2組30名 合計60名
会場 体育館
共催 渋谷区教育委員会・一般社団法人SWITCH
協力 渋谷区立臨川小学校
助成 日本財団 海と日本プロジェクト

● タイムテーブル

11:15 SWITCH 代表 佐座／気候変動についてのレクチャー
 11:20 プランクトンの観察とスケッチ
 11:30 SWITCH／プランクトンの生態・海洋ゴミ問題のレクチャー
 11:55 海を元気にしてくれるプランクトンについて話し合い
 12:00 終了

● 一般社団法人SWITCH レクチャー

佐座が幼少期に環境問題に対する意識を高めた経験を紹介した後、日本人が地球の資源を過度に消費しており、現在では地球が2.9個必要という現状をクイズ形式で伝えました。さらに、SDGsやプラネタリーバウンダリーの問題にも言及しました。その後、SWITCHの図林はプランクトンの生態について具体的に説明し、海洋ゴミの深刻化やそれが食物網に及ぼす影響について触れました。また、人間の食生活が脅かされていることを強調し、ゴミの発生抑制や分別がプランクトンを守るだけでなく、自分たちの生活を守ることに繋がることとまとめました。



資源の循環の紹介



地球1つですむ暮らしへ

● プランクトンの観察・スケッチ

参加児童が、臨川小学校の敷地内や井の頭公園で収集したミジンコなどの水中のプランクトンを光学顕微鏡で観察しました。観察後、SWITCHが提供したワークシートにプランクトンのスケッチを行ったあと、実際に目にしたプランクトンの形や動きについて話し合いました。



プランクトンの観察



観察した内容の共有



一人ずつワークシート



第2回 渋谷で感じる海ワークショップ in 臨川小学校

臨川小学校の鈴木先生による海洋ゴミ問題の実体験談から始まり、SWITCHの学生インターン 園林が人間活動が海洋に与える影響について解説しました。続いて、SWITCHのアートディレクター 佐座レミがプランクトンを通じた海洋問題の創造的解決策を提示。これを受け、児童たちは「海洋問題を解決するプランクトン」をテーマに独自のアイデアを描きました。ワークショップの締めくくりとして、協賛企業である三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）の代表者2名が、同社の環境活動支援の取り組みについて紹介しました。

● ワークショップ概要

開催日時 2024年7月9日（火）4年1組：8:30～10:05／4年2組：10:25～12:00
参加者合計 4年1組30名／4年2組30名 合計60名
会場 臨川小学校図工室
共催 渋谷区教育委員会・一般社団法人SWITCH
協力 渋谷区立臨川小学校・三菱UFJ銀行渋谷支店
助成 日本財団 海と日本プロジェクト

● タイムテーブル

- ・5分 臨川小学校鈴木先生／石垣島のゴミ問題についてのレクチャー
- ・25分 SWITCH／海洋プラスチック・汚染問題のレクチャー
- ・5分 SWITCH アートディレクター 佐座／プランクトンによる海洋問題解決の連想紹介
- ・55分 海を元気にしてくれるプランクトンの作成
- ・5分 三菱UFJ フィナンシャル・グループ 中山様・朝倉様／三菱UFJフィナンシャル・グループの業務・環境活動支援についての紹介
- ・終了

● 一般社団法人SWITCH レクチャー

臨川小学校の鈴木先生は、石垣島での実体験を通して海洋ゴミ問題の深刻さを生々しく伝えました。続いてSWITCHのメンバーが、人間活動に起因する海洋問題の全体像を解説しました。海洋ゴミの65%がプラスチック製であることを強調し、排水や原油流出による海洋汚染の実態、さらに地球温暖化がサンゴ礁に与える影響などについて詳しく説明しました。教室前には、鈴木先生が鎌倉の海岸で収集したペットボトル、漁網、ルアーなどの実際の海洋ゴミが展示されました。児童たちは、これらの展示品に直接触れることで、海洋ゴミ問題の現実味を体感し、海洋環境問題への理解を深めました。

● 海を元気にしてくれるプランクトンの制作

SWITCHのアートディレクターである佐座レミは、自身のアート作品を紹介した後、プランクトンの写真を用いて、「このプランクトンはどのように環境問題を解決できるだろうか」という問いかけを通じて、児童たちの想像力を刺激しました。その後、児童たちは自由に画材を選択し、「地球を元気にするプランクトン」をテーマに独自の作品制作に取り組みました。制作過程では、SWITCHのメンバーや協賛企業であるMUFGの代表者が教室を巡回し、児童たちに個別のサポートを提供しました。このワークショップは、科学的知識とアートを融合させ、環境問題に対する新しい視点と解決策を生み出す可能性を探る試みとなりました。



● 三菱UFJ フィナンシャル・グループ | 活動紹介

三菱UFJ銀行渋谷支店の中山様と朝倉様に、MUFGの中心業務である金融業について解説いただいた後、サステナブルな暮らしのためにMUFGが融資やボランティアを通じて支援している活動についてご紹介いただきました。





第3回 渋谷で感じる海ワークショップ in 臨川小学校

SWITCH学生インターン園林による第1回・第2回の内容復習に続き、多様な海洋環境の紹介が行われました。その後、SWITCHアートディレクター 佐座レミが、渋谷駅東口地下広場での展示予定作品群と、それらを構成する布の色付け技法について解説しました。児童たちは、前回のワークショップで制作したプランクトン作品に背景や説明文を加え、さらに展示用の布に色付けを施すなど、作品の完成度を高める作業に取り組みました。

● ワークショップ概要

開催日時 2024年7月16日（火）4年1組：8:45～10:20 / 4年2組：10:45～12:20

参加者合計 4年1組30名/4年2組30名 合計60名

会場 臨川小学校図工室

共催 渋谷区教育委員会・一般社団法人SWITCH

協力 渋谷区立臨川小学校

助成 日本財団 海と日本プロジェクト

● タイムテーブル

- ・ 25分 SWITCH / 第1回・第2回ワークショップの復習・海洋環境のレクチャー
- ・ 5分 SWITCH アートディレクター 佐座 / 渋谷駅地下広場作品群の説明
- ・ 60分 海を元気にしてくれるプランクトンの背景と説明文の作成・布の色付け
- ・ 終了

● 一般社団法人SWITCH レクチャー

園林は第1回と第2回のワークショップ内容を簡潔に復習しました。プランクトンの多様性と重要性、そして人間活動が海洋に与える影響について要点を確認しました。さらに、「海を元気にするプランクトン」というテーマに深みを持たせるため、外洋、磯、サンゴ礁、マングロープなど、様々な海洋環境とその特徴を写真とともに紹介しました。この多角的なアプローチにより、児童たちの海洋生態系に対する理解と創造力を刺激しました。



● 海を元気にしてくれるプランクトンの背景と説明文制作・布の色付け

SWITCHアートディレクターの佐座レミは、ジャイアントケルプによるブルーカーボン（海洋生態系による炭素吸収）の重要性を説明しつつ、8月に渋谷駅地下広場で開催予定の展示会について紹介しました。展示作品の制作過程で必要となる布の色付け技法についても詳しく解説しました。児童たちは、前回のワークショップで制作した「海を元気にしてくれるプランクトン」の作品に、背景の追加や説明文の執筆を行いました。同時に、渋谷地下広場の展示作品を構成する布の色付けにも取り組み、アートを通じた環境問題への理解を深めました。



● 担当者の声

臨川小学校 河口尚志 校長

子供たちが、今海の中でどんな環境問題が起きているかをしっかりと学ぶことができ、その上で理想のプランクトンについて考えました。本当に夢のようなプランクトンがいれば環境は守られたかもしれません。このことをきっかけとして、さらに海のような課題について意識をもち、追究していったほしいと願います。

臨川小学校4年生図工 鈴木柚子 先生

環境問題について様々な活動をされているSWITCHさんが、海洋問題について熱く語ってくださったおかげで、子どもたちは環境問題を身近に感じることができました。環境問題が身近に感じたからこそ、子どもたちは「地球を元気にするプランクトン」について、色や形を想像しながら絵に表すことができました。今後も様々な環境問題について考え、行動できる人になって欲しいです。

三菱UFJ銀行渋谷支店 中山 龍太郎 様

子どもたちの環境問題に対する活発な意見出しや柔軟な発想力、そしてその考えを絵で表す表現力には感銘を受けました。我々も今年度の中期経営計画の柱の一つに「社会課題の解決」を掲げております。子どもたちからもヒントをもらいながら、一緒に社会課題に向き合い解決していきたいと思えます。

三菱UFJ銀行渋谷支店 朝倉 佑人 様

ワークショップを通じ、次世代を担う子どもたちが環境問題について興味を持つきっかけになったと感じるとともに、我々社会人も「自分事」として取り組むべき事項であると感じました。サステナブルな社会の実現のために、子どもたちとともに社会課題の解決に向けて引き続き取り組んで参ります。

● ワークショップの様子

